

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和2年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	令和2年11月17日(火) 10時30分～12時00分
開 催 場 所	高松市役所本庁舎3階 32会議室
議 題	(1) 2017(平成29)年度温室効果ガス排出量等について (2) 地球温暖化対策実行計画に係る指標の見直し等について (3) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和元年度取組状況について (4) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの見直しについて (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	15人 嘉門会長、白木副会長、赤崎委員、生嶋委員、植中委員、大三島委員、香川委員、久保委員、酒向委員、佐々木委員、谷川委員、土手委員、西村委員、橋田委員、森田委員
欠席委員	3人
傍 聴 者	0人 (傍聴席：10席)
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課 地球温暖化対策室 (TEL087-839-2394)

審議経過及び審議結果

協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

- (1) 2017(平成29)年度温室効果ガス排出量等について
(事務局より説明)
以後審議

(委 員)

川岡コミュニティセンターにて照明設備のLED化とあったが、市の公共施設でLED化は何%程度進んでいるのか。

(事務局)

全庁的な普及率については把握していない。

(会 長)

照明設備のLED化について、進行管理指標の中に設けているか。

審議経過及び審議結果

(事務局)

指標の中に盛り込んでいないため、進捗具合を数値として把握できていない。

(会長)

指標を見直す際に盛り込む必要があるように思う。ぜひ検討いただければと思う。

(委員)

環境省からも、2030、2050年までのエネルギーの総削減量の目標数値も出てきているが、各目標について進行管理指標の数値目標を出すべきだと思う。

(委員)

国としては、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目標としている。各自治体にはゼロカーボンシティを目標に掲げていただいております、目標達成のために各施策についてバックアップするという形をとっている。指標については、現在データが手元にないが把握した際には共有させていただく。

(委員)

照明設備のLED化については、2050年を目標に考えた際に、現在の技術の延長で考えていいのかという疑問が出てくる。30年後には技術革新等により、高性能な製品が普及しているかもしれない状況の中で、現段階で指標の中にLEDの使用量等について具体的な数値目標を掲げると、今後指標としてうまく機能していかないと考える。

(会長)

全体のコストも含め、どの程度省エネにつながるのかを試算した上で適切に検討する必要があるので、直ちに指標に入れるということではなく、小さなことから取り組み、全体として省エネに努めていかなければならないと考える。高松市には引き続き省エネに取り組んでもらいたい。

(2) 地球温暖化対策実行計画に係る指標の見直し等について

(事務局より説明)

以後審議

(委員)

宣言について、形式に決まりはあるのか。

(事務局)

宣言の形式に決まりはない。国が示している例としては、市長定例記者会見や議会など、様々な方法があるので、適切な時期に適切な方法で宣言していく。

(委員)

適応策については様々な分野に跨っており、国土強靱化とも関係してくるように思う。あらゆる最悪の事態に備えるためにどうしたらよいかという議論がある程度行われないと、具体策を考えるのは難しいのではないかと。

(事務局)

適応策は幅広い分野にわたるため、庁内関係課だけでなく、香川県に設置されている香川県気候変動適応センターと連携をしながら情報収集に努め、適切な対策についてまとめていきたい。

審議経過及び審議結果

(3) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和元年度取組状況について

(4) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの見直しについて

(事務局より説明)

以後審議

(委員)

用紙類の削減について、ウェブ会議やペーパーレス化をどのように導入していくのかという問題において、指標とまではいかないかもしれないが、目標を立てていくべきだと考える。

(会長)

用紙使用量については、これまでデータを取っていなかったものが新たに入っているため、数値が合わない箇所も出てきている。これについては、今後修正・改善をした上で、市として用紙の削減について見直しをしていくということで理解している。

(委員)

レジ袋削減について、レジ袋の辞退率は何%なのか。

(事務局)

レジ袋の辞退率については、レジ袋の有料化前は約30%であったが、有料化後は80%を超えている。市の生協においても4月からレジ袋の有料化を実施しており、4、5月のデータでは辞退率は90%に達している。レジ袋の有料化に伴いレジ袋の削減は進んでいると認識している。

(委員)

用紙使用量については、年度末に何枚の紙が残り、単年度で何枚使用し、用紙の削減率はどのくらいだったか把握できれば、実際の数が出てくると思う。今のやり方だと、漠然とした使用数しか把握できないのではないか。

また、資料3の7ページにおいて、環境局の施設数が減少しているのに対し、延床面積の変化がなく、電気使用量が増加しているのはなぜか。

(事務局)

まず、用紙の購入方法については、最初に購入して残数を確認するやり方ではなく、基本的には必要に応じてその都度購入するという方法を採用している。

次に、環境局の延床面積が変化せず電気使用量が増加しているという点について、まず施設数については、施設を撤去したタイミングが影響している。前年度に床は撤去したが施設自体が残っていたため、1年分のズレが生じていた。

次に電気使用量の増加について、南部クリーンセンターには焼却炉が3つあり、売電に繋がる余剰電力を発生させるためには2炉での運転が基本になる。令和元年度においては、焼却炉の異物混入等やごみの量の変化により、1炉及び3炉運転が増加した。これにより発電量が減少し、電気使用量が増加した。

(会長)

レジ袋の削減については、今年度は著しい削減だったと思う。どの施設においても今はレジ袋を提供しない流れになっており、効果的に削減されていると思う。

審議経過及び審議結果

(委員)

資料3の3ページの点検・評価について、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染対策として冬場でも換気をしなければならない、また、夏場でも窓を開けなければならない状況の中で、エアコン等の使用電力量は間違いなく増加すると予想される。また、プラスチック類の焼却量を削減していくという温暖化対策を進める中で、目標とは正反対の方向に進む感染症対策を行わなければならない事態が今後複数年にわたり継続されていくと予想されるが、これらを踏まえた上でどのように対処していくのか。

(事務局)

市全体の温暖化対策の目標については、資料1の7～10ページにある進行管理指標を設けている。来年度はこの指標を見直す年となり、その際には項目自体も見直していく。現在の新型コロナウイルスを取り巻く状況も今後変化していくと思うので、新型コロナウイルスの感染状況も踏まえながら目標について検討していく。

(5) その他

(事務局より説明)

(会長)

それでは本日の会議はこれをもって終了する。